

どうしていますか？修了に向けた取り組み ～運営とその実践例～



開催日：令和4年6月30日（木）
会場：奈良春日野国際フォーラム
薨～I・RA・KA～
参加者数：35名

研修認定委員会より

本研修会は、改めて「修了」の意味を考えるとともに、それに向けた具体的な実践方法を受講者の皆さんと一緒に深めていくことを目的として企画しました。修了は目指す方向ではある一方で、修了ありきで進めることは避けるべき、という考え方が皆さんと共有できたと感じています。

また、本研修会は第44回全国デイ・ケア研究大会2022in奈良の開催前日に、会場・オンラインを併用したハイブリッド形式にて開催されました。多くの方のご参加ありがとうございました。



みなさんの事業所では「修了」を意識した取り組みは行われているでしょうか？
昨今では、通所リハの次のステージへ向けた介入がキーポイントになっています。
本研修会では、修了の意味を改めて考えるとともに、具体的な取り組みの実践例を
交えながら、みなさんと一緒に明日から取り組めることを検討していきます。



奈良春日野国際フォーラム 薨～I・RA・KA～

〔開催日時〕 2022年6月30日（木）
13時30分～16時00分
〔会場〕 奈良春日野国際フォーラム
薨～I・RA・KA～会議室Ⅰ
〔定員〕 50名程度
〔参加費〕 大会参加者 2,000円（税込）
当協会会員 5,000円（税込）
非会員 10,000円（税込）
※ご希望の方はお弁当を注文できます。

【タイムスケジュール】

13:00	受付開始
13:30	〈講義〉 修了を考える ～通所リハの「次」を見据えた介入とは～
14:30	講師：藤本 健 全国デイ・ケア協会 研修認定委員会委員長 医療法人はあとふる 八尾はあとふる病院
14:30	休憩
14:40	〈グループワーク〉 事業所の内と外を視野に入れた 修了への取り組み
16:00	座長：岡野 英樹 全国デイ・ケア協会 理事

修了を考える～通所リハの「次」を見据えた介入とは～

■そもそも修了が必要？

- 通所リハビリテーションと通所介護の違い

■修了への様々なアプローチ例

- 契約時・サービス担当者会議時の説明
- 利用中のアプローチ（療法士の対応数・自主トレーニング）
- 様々な修了（リハマネジメントに基づいて）
- 修了後の確認方法（移行支援加算対象に限らず）
- 修了後の地域居宅・通所介護事業所との連携

■利用者が修了すると運営が厳しくなる？

- 新規利用者獲得への取り組み

利用者・家族への説明

□利用者にとってどのような修了後サービスが良いか？

- 通所系サービスは家の近く？
- 通所系サービスは半日型？
- 通所系サービスは1日型？
- 通所系サービスは運動型？
- 通所系サービスでの入浴が必要？
- 通所系サービス回数は週何回必要？
- 自宅での活動状況は？
- 体調管理が必要？
- 薬管理が必要？

リハビリテーションマネジメントに基づいて

□目標設定が生活範囲拡大の場合 良くなったから修了（卒業）

- 閉じこもりから外出ができるようになった
- 荷物を持って買い物ができるようになった
- 公共交通機関を利用できるようになった
- 元々行っていた地域社会への参加ができるようになった

□利用日以外の生活課題を見極め 修了後のサービス提案へ

- 自宅での運動習慣は？
- 他者との会話は？
- 地域社会とのつながりは？
- 数年後の生活課題は？

地域居宅事業所への取り組み

□定期的な営業活動・情報提供 工夫とメリット

- リハビリが必要な方がすぐ利用できるように、空き状況の配布・広報を実施
- 療法士が利用者のサービス担当者会議に出席し今後の方針説明と共有
- 療法士による定期的な利用状況・目標進捗度合いの報告で今後必要なサービスを提案
- 介護支援専門員とともに居宅訪問実施で課題の共有

- 顔の見える関係を構築することで新規利用者紹介へつなげる